

岡山大学自然生命科学研究支援センター
動物資源部門鹿田施設学外者利用料金表

2023年10月改訂

1 飼育料金

(1) 通常飼育料金 (以下の表に基づき算出する。)

げっ歯目動物 ※ (1日1ケージあたり※ ¹)		げっ歯目動物以外 ※ (1日1匹 (羽) あたり)	
動物種	飼育料 (円)	動物種	飼育料 (円)
マウス	150	イヌ	3,000
ラット	246	コモンマーモセット	1,950
ハムスター	246	カニクイサル	3,000
スナネズミ	246	ニホンザル	4,500
その他げっ歯目動物 (マウスケージ)	150	ブタ・ヤギ	3,750
その他げっ歯目動物 (ラットケージ)	246	ウサギ	900
		モルモット	165
		ヒヨコ (1ヶ月齢未満)	150

※¹ げっ歯目動物のケージあたりの最大収容数は手引きの別項を参照。

【備考】記載がない動物種の収容は、要相談 (他の施設で収容できるものがある)。

(2) 特殊実験区域飼育料金 (1日1ケージあたり※¹ で以下の表に基づき算出する。)

特殊実験区分	マウスケージ使用の場合 (円)	ラットケージ使用の場合 (円)
感染実験区域 (BSL2)	225	264
感染実験区域 (BSL3)	375	396
化学暴露実験区域※ ²	150	246
その他区域※ ³ 等	225	264

※² 化学暴露実験区域で使用するケージは設置飼育装置専用のディスプレイケージ (実費負担: マウス用 3,400 円、ラット用 4,500 円) を用いる。

※³ 感染実験区域並びに化学暴露実験区域を除いた昼夜逆転実験等、特殊な条件で実施する実験を実施する区域

2 実験室等使用料金

実験室使用料金^{※4※5}は以下の表に従い使用時間を元に積算する。

実験室の名称 (室番号)	利用料 (円)	備考
感染実験室 (1115) (BSL3) 化学暴露実験室 (3110)	2,700 円 / 1h	
感染実験室 (1118) (BSL2 セーフティーキャビネット使用料)	1,800 円 / 1h	
特殊実験室 (3103)	1,800 円 / 1h	
メインウェットラボ・ハーフ (1201)	25,200 円 / 4h	
メインウェットラボ・フル (1201)	108,000 円 / 日	多目的研修室等の利用料を含む。
サブウェットラボ (1202)	50,400 円 / 日	原則として支援業務用スペース、貸与はやむ得ない場合のみ実施。
多目的研修室 (1302)	21,600 円 / 2h	メインウェットラボ・フル利用者以外で利用する場合に適用
移植実験室 (2201)	54,000 円 / 日	移植細胞調整室の利用料を含む。
移植細胞調整室 (2207)	7,200 円 / 4h	
3F ラット実験室 (3118) 3F マウス実験室 (3122)	条件よる	共用テーブル使用は無料。テーブル専有の場合、テーブル課金制度を適用
マウス特殊飼育室 (3104) マウス代謝測定室 (3123) 測定機器室 (3124)	7,200 円 / 日	飼養保管に関する料金は別途徴収
X線CT室 (2209) ウサギ手術室 (3201) マーモセット手術室 (3211)	5,400 円 / 4h	
スナネズミ実験室 (3202) ハムスター実験室 (3210)	条件よる	共用テーブル使用は無料。実験台を専有する場合、実験台スペース料を適用
4F 第二実験室 4F 第三実験室	無 料	実験台の専有は認めない。
4F 第一実験室 4F 第四実験室	条件よる	共用テーブル使用は無料。テーブル専有の場合、実験台スペース料を適用 ^{※4}
4F：代謝ケージ室 (4101)	7,200 円 / 日	飼養保管に関する料金は別途徴収
4F：マウス防音室 (4122)	12,600 円 / 日	飼養保管に関する料金は別途徴収
5F 明暗コントロール室 (5101) 5F マウス行動観察室 (5102)	7,200 円 / 日	飼養保管に関する料金は別途徴収
5F 特殊機器設置室 (5104)	1,800 円 / 1h	
5F 実験室 (5103)	無 料	実験台の専有は認めない。

^{※4} 圧縮空気、吸引、O₂、CO₂は配管されているガス種に限り無料で使用することができる。

^{※5} 消耗品・測定機器・実験台スペースチャージは別に定める。

3 管理費・測定機器等設置料・実験台スペース料・消耗品保管料

以下の表に従い使用日数の合計から算出する。

項目	利用料（円）	備考
管理費（一人当たり）	480 円 ／エリア入場回数	予防衣・マスク・キャップ・グローブ使用料
飼育ケージ貸出料		
マウスケージ 1 個	75 円／日	給水ボトル及び床敷等を含まない。
ラットケージ 1 個	165 円／日	給水ボトル及び床敷等を含まない。
測定機器等の設置料		
共同利用化する場合 ^{※6}	無 料	別途利用料金を徴収して施設が保守を行う。
共同利用化しない場合	750 円／日	作業台基準床面積 0.4m ² (約 55 円 /0.1m ²)
実験台スペース料	1,140 円／日	実験台基準床面積 0.54m ² (約 60 円 /0.1m ²)
消耗品保管料 ^{※7}		
中型動物実験室で 1 個目まで	750 円／日	原則として専用パレットの使用、 また容積 600L の容器を使用
同上 2 個目以上	2,250 円／日	同上 個数毎を積算
その他の実験区域の実験室 (3103 室・3110 室を除く)	無 料	外形容積 60L 1 個目まで
同上 2 個目以上	1,890 円／日	同上 個数毎を積算
3103 室・3110 室で 1 個まで	420 円／日	外形容積 60L 1 個目まで
同上 2 個目以上	1,890 円／日	同上 個数毎を積算

^{※6} 受け入れの可否は、部門長（施設長）が決定する。

^{※7} 消耗品の施設内保管は一研究グループにつき 1 個を原則とし、2 個以上については専任教員（主任者）が可否を判断する。

4 特殊機器・室使用料金（機器使用料金を含む）

(1) X線照射装置、X線撮影装置

内訳	30分あたり利用料	備考
X線照射装置	10,950円	「特殊機器室使用願」には、30分単位で使用時間を記載する。
X線撮影装置	5,460円	「特殊機器室使用願」には、30分単位で使用時間を記載する。

(2) 孵卵器・育雛器使用料

内 訳	利 用 料	備 考
孵卵器使用料	75円（一受精卵一回あたり）	受精卵は利用者が手配する。
育雛器使用料	165円（一羽一回あたり）	ふ化後、2日まで

(2) 小動物用 X 線 CT 装置

内 訳	料金・円 / 1時間	備 考
小動物用 X 線 CT 装置本体	46,200円	3F マウス・ラット飼育・実験区域に設置
ワークステーション	3,000円	2F ワークステーション室に設置
X 線 CT 装置等撮影代行手数料	1,950円	導線管理上やむをえず撮影作業を代行時における追加料金

(3) In vivo imaging system

内 訳	料金・円 / 1時間	備 考
IVIS Lumina	20,150円	感染実験区域に設置
Lumazone	18,150円	化学物質暴露実験室に設置
ワークステーション	3,000円	

(4) 細胞培養・遺伝子導入装置・TG 動物作成等

項 目	料 金	備 考
セーフティーキャビネット	無料	
CO ₂ インキュベーター	360 円 / 1時間	一日あたりの上限を 1,100 円とする。
マイクロインジェクション装置	14,880 円 / 1時間	メイン機器寄託者等に適用
エレクトロポレーター NEPA21	36,300 円 / 1回	
エレクトロポレーター用電極	5,460 円 / 1回	

(5) 行動解析装置・代謝ケージラック・明暗コントロールボックス

内 訳	料 金	備 考
行動解析装置 ^{※8}	1,830 円 / 1h ^{※9}	
代謝ケージラック	1,080 円 / 24h	
明暗コントロールボックス	1,080 円 / 24h	
マウス・ラット蓄尿器	1,080 円 / 24h	

※⁸ モーリスの水迷路のようにセットアップ時に水を張る等の作業を必要とする解析装置では、セットアップ状態等で装置を維持・占有しても利用料金の算定時間とカウントしない（要実験室予約）。

※⁹ 利用時間とは、行動解析実験実施日における最初の実験室入室時からカウントし、同日の全行動解析作業が終了後、同室から実験動物の撤収及び退室が完了するまでをいう。

5 マウス胚凍結・胚移植料金^{※10}

業 務 内 容	利 用 料 金	備 考
マウス胚・精子凍結	252,000 円 / 回	動物は利用者で準備する。凍結胚から新生仔が得られるか否かまでを確認する。
凍結精子を用いての体外受精及び胚移植	180,000 円 / 回	残った胚を凍結する場合は、165,000 円 / 回を追加負担とする。
マウス胚移植	180,000 円 / 回	
ドライシッパー利用料	108,000 円 / 回	輸送中の紛失は利用者負担で弁償とし、故障は施設の負担とする。
マウス胚・精子保存料	1,800 円 / 月	ケーン一本当たり

※¹⁰ 微生物検査等が必要な場合は利用者の負担で行う。

6 分析料金

(1) 血液生化学分析^{*11}

測定項目	利用料	測定項目	利用料
グルコース	1,044 円	GOT	1,440 円
尿酸	1,044 円	GPT	1,440 円
総コレステロール	1,620 円	LDH	1,044 円
トリグセライド	1,440 円	CPK	1,044 円
尿素窒素	1,044 円	GGT	1,800 円
総ビリルビン	1,044 円	アミラーゼ	1,800 円
カルシウム	1,044 円	ロイシンアミノペプチダーゼ	1,800 円
総タンパク	1,044 円	ALP	1,044 円
アルブミン	1,044 円	クレアチンキナーゼ	2,160 円
無機リン	1,080 円	コリンエステラーゼ	2,160 円
マグネシウム	1,044 円	Na-K-Cl	5,040 円
HDL-コレステロール	5,040 円	ヘモグロビン	1,044 円
血中アンモニア	2,160 円	C 反応性タンパク質	5,040 円
クレアチニン	1,044 円	フルクトサミン	1,800 円

^{*11} 分析機器の操作は、職員が行う。

(2) 血球数測定^{*11}

利用料	測定項目
1,080 円／依頼 + 360 円／測定件数	イヌ・ネコ：RBC、WBC、HGB、HCT、PLT + LY、MO、EO、GR その他の動物：RBC、WBC、HGB、HCT、PLT

^{*11} 分析機器の操作は、職員が行う。

7 中型動物ウェットラボ技術支援^{※12}

業務内容	利用料金	備考
不動化・麻酔導入	22,500 円 / 回	不動化から気管挿管等まで (利用料金に麻酔導入薬代が含まれる。)
麻酔維持管理	75,000 円 / 回	術中の動物モニタリング / 緊急時対応
術後ケア	7,500 円 / 日	術後当日からのケア (概ね 3 日程度)
da Vinci 基本使用料	37,500 円 / 日	メーカー保守終了のため保守整備は行わない。

※12 技術支援における条件等

(1) 鹿田施設内の中型動物実験室での実施であり、原則として同施設の業務時間内での実施であること。ただし、休日等開催の講習会には柔軟に対応するが、事前に施設職員と打合せが必須。

(2) 上記には、中型動物実験室利用料金、動物飼育料金及びその他、必要とされる施設の利用料金は含まれていない。

(3) 使用する消耗品は、利用者が用意する。ただし、消耗品等は施設在庫品を利用することができる。この場合、使用した消耗品代は実費（購入単価を元に算出し、100 円若しくは 10 円未満を切り上げた金額）を元に、出来高で計算し、その合計額を利用者の負担とする。

(4) 実験動物の状態確認は動物実験実施責任者の責務であることを念頭におくこと。

(5) 本業務への依頼の有無に関わらず、本施設に収容している実験動物に関しては施設の獣医師（専任教員）の判断で術後ケアを行う場合がある。その場合、所定の利用料金、例えば、不動化や術後ケアの利用料金及び消耗品代の合計額を利用者の負担とする。

(6) 抜糸は原則として利用者が行うが、施設に依頼することもできる。この時には、所定の利用料金、例えば、不動化や術後ケアの利用料金及び消耗品代の合計額を利用者の負担とする。

8 その他

項目	利用料金	備考
ホルマリンガス滅菌	3,600 円 / 回	
高圧蒸気滅菌器	3,600 円 / 回	
給水寒天	750 円 / 個	
営巢材	114 円 / 袋	約 30g / 袋
試験飼料及び水管理 ^{※13}	105 円 / ケージ	1 日あたりで通常飼育料金に加算する。
感染実験区域試験資料及び水管理 理及び死体処分管理 ^{※13※14}	1,800 円 / ケージ / 日	1 日あたりで通常飼育料金に加算する。

※13 げっ歯目動物のみ対象とし、長中期間の出張等により止むを得ず研究者自身による給餌・給水ボトルの準備と交換作業等が実施できない場合にサービスを提供。

※14 適用範囲を累計 3 日 / 年までに制限。

9 マウス・ラット実験技術講習会料金及び個別技術指導料金

項 目	利 用 料 金	内 容
定期講習会受講料金 ^{※15}	使用する実験動物と実験動物用翼付採血針3本の実費	
マウス	12,000円/名/回 ^{※15}	マウス2匹及び実験動物用翼付採血針3本
ラット	12,000円/名/回 ^{※15}	ラット1匹及び実験動物用翼付採血針3本
フローアップ指導1時間	8,800円/名/回	岡山大学教育訓練を受講、知識確認試験で合格点を得た研究者に限る。

^{※15} 開催日時を本部門で指定して実施する技術講習会を定期講習会と呼称する。

^{※16} 学外者向け定期講習会受講料金は、学内向けラット定期講習会受講料金+学外者向けフローアップ指導料金とする。及び後援する関連学協会がある場合には、後援内容で割引を行う場合がある。

10 備考

9の項目を除き、上記の利用料金に消費税を含まない。